

## 良質で食味が良い普通期水稻主食用米新品種「ひなた舞（南海189号）」の育成

「ひなた舞（南海189号）」は「ヒノヒカリ」より高温での品質低下が少なく同程度の食味である

## 背景・目的

- 「ヒノヒカリ」は、良質で食味が優れているため県内で普通期水稻の主力品種として幅広く作付けされていますが、近年、登熟期間中の高温による品質の低下が問題となっています。
- そこで、「ヒノヒカリ」より高温で品質の低下が起こりにくく、同程度の食味を持つ主食用米品種を育成しました。

## 成果の内容

- 「ヒノヒカリ」より出穂期が3日、成熟期は4日遅いです(表1)。
- 稈長は同程度で穂長は長く、穂数はやや少なく、千粒重が大きく、草型は“偏穂重型”です(表1)。
- 検査等級は“5.0”、高温登熟性は“中”と「ヒノヒカリ」よりも登熟期間中の高温による品質の低下は少ないです(表1,2)。
- 収量は「ヒノヒカリ」より多収で、食味は「ヒノヒカリ」並に優れる“極良食味”です(表1)。

表1 「南海189号」の特性概要

試験期間	2016～2024	
品種名・系統名	南海189号	ヒノヒカリ
早晩生	中生の晩	中生の中
草型	偏穂重型	偏穂重型
出穂期(月/日)	8/24	8/21
成熟期(月/日)	10/4	9/30
稈長(cm)	84.1	83.6
穂長(cm)	21.6	19.8
穂数(本/m <sup>2</sup> )	342.5	378.9
耐倒伏性	やや弱	やや弱
脱粒性	難	難
精玄米重(kg/a)	61.2	55.5
同上標準率(%)	110.2	100.0
玄米千粒重(g)	25.0	21.8
検査等級 <sup>1)</sup>	5.0	6.3
玄米タンパク質含有率(%)	6.1	7.1
精米アミロース含有率(%)	20.0	18.5
食味官能値	0.38	0.00

表2 特性検定試験の結果

品種名 系統名	高温登熟性										判定
	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024		
南海189号	×	◎	○	○	×	×	×	×	△	△	
ヒノヒカリ	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	

  

品種名 系統名	葉いもち										判定
	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024		
南海189号	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
ヒノヒカリ	×	×	×	△	○	×	×	○	○	△	

  

品種名 系統名	穂いもち										判定
	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024		
南海189号	◎	○	◎	◎	◎	◎	○	○	◎	◎	
ヒノヒカリ	×	△	×	△	×	×	×	×	△	×	

◎：強、○：やや強、△：中、×：やや弱、××：弱

1) 1 (1等上)～10 (規格外)の10段階評価

※交配親：「南海177号」良質・良食味 × 「関東257号」良質・良食味・Pi39保有

※データは、9カ年(2016～2024年)成績の平均値を示している。

## 成果の活用先

- 県内の普通期水稻において品質向上が課題の経営体、または他の普通期水稻
- 品種との作期分散が必要な大規模経営体を中心に普及を図ります。

## 普及により期待される効果

- 普通期水稻の食味を維持しつつ、玄米品質の改善が期待されます。
- 普通期水稻と作期分散することで、農繁期の作業性向上が期待されます。

## 留意点

- 2025年から栽培試験を行い、移植時期や最適な施肥法など、栽培技術の確立を図ります。
- 今回の研究成果は、宮崎県総合農業試験場(宮崎市佐土原町)で栽培した試験結果です。

関連研究成果カード：2025年度整理番号7

関連事業名：生産者・実需者ニーズのワンランク上を目指したランクアップ育種(県単)

研究期間：2016～2024年度



図1 成熟期の「南海189号」